

雨の上がりし秋の夜、二階にある我家の應接間の窓より奇妙なる光景見えたり。向かひの家窓より漏れる明かりの中、電線上猿のごとき小動物の影浮かびあがり。猫は電線上に昇ることほぼ皆無なり。尻尾によりバランス取りしも、電線甚だしく揺れたれば、ゆめ幻覺にはあらし。思はず小走りに玄關の扉開き、暗闇の中を門扉まで階段を降りたり。路上には車停車してあれども、運轉手は携帯電話に氣を取られ、頭上の小動物まで視線とどかず。雨上がりと言へども、雲多く月明りは無かりけり。目を凝らせば電線上に猫のごとき動物坐したり。微動だにせざれば、つまらぬと思ひ玄關まで戻る。にはかに始動せむと、電線を傳ひて我家の敷地内の大きな櫛の木を傳ひて、こちらに向ひたりとぞ知らるる。目を凝らせば鼻に白き縦線見えき。嗚呼これハクビシンなり。隣の樹木に飛び移り、地面に落ちたりや、飛びたりや判明せざるが、甲高き鳥のごとき鳴き聲發しながら、走り去りき。思ひかへすに、これまでもあの甲高き鳴き聲は夜中に聞きたり。玄關に置きてある、猫草を道具使ひて刈り切りたるかのやうに、綺麗に食ひたる痕跡見られしも多々ありき。噂には聞き及びしも、我もハクビシンに遭遇せむ。この地域流石に等々力溪谷及び多摩川に近き故、自然豊かなりといふ證左ならむ。

ウイキペディアによれば、ハクビシン（白鼻芯・中國語果子狸）は日本に生息せる唯一のジャコウネコ科に屬する哺乳類にて、外來種なり。その名の通り、額より鼻にかけて白き線あることこそ特徴なりけれ。中國大陸南部を中心に、東南アジア、インド、ネパール等の南アジア、そして臺灣及び日本に生息する由判明してあり。多くは海拔二百から一千メートルの低山の山林に生息し、植物中心の雑食性にて、果實、種子、小動物、鳥、鳥の卵等を食らふ。木登り得意にて、最近では民家の牀下および屋根裏などに棲み著く事も多々あり。夜行性にて電線を傳ひて移動する事ありと明記せらる。

（平成二十八年四月十日受附）